

序 章



計画の策定にあたって

1. 計画策定の背景と目的

佐渡市は、本州、北海道、九州、四国を除くと、沖縄本島に次ぐ大きさの島であり、北に大佐渡山地、南に小佐渡山地の2列の山地と、これに挟まれた国中平野から形成され、この国中平野の東に両津湾、西に真野湾の深くびれがあり、島全体がS字状になっている。平成16(2004)年には、島内の両津市・相川町・佐和田町・金井町・畑野町・真野町・羽茂町・小木町・新穂村・赤泊村の全10市町村が合併し、現在の一島一市である佐渡市が誕生した。

なお、現在は、旧市町村単位の地区が設定されている。

古代には、流刑の島と定められた一方で、『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』に、佐渡における金産出の初出と考えられる記録が残されている。中世になると、相模国の本間氏が守護代として入国したほか、順徳上皇をはじめ、日蓮・世阿弥といった歴史上の人物が相次いで佐渡へ配流となり、彼等が都から持ち込んだ文化が、佐渡の信仰や風習、芸能に影響を及ぼした。

また、鶴子銀山や西三川砂金山、相川金銀山^{*}といった鉱山の発見・開発等により、日本海側きっての「鉱山都市」相川へと発展するとともに、国内各地から様々な職業の人々が集まり、様々な文化や芸能が伝えられていった。金銀山の繁栄は、佐渡をめぐる海運の活動も活発化させ、江戸時代初期に金銀の積出港として整備された小木港は、西廻り航路の開設とともに廻船の寄港地となり、さらなる繁栄をみせた。

近世期の佐渡の文化は、金銀山の開発に伴う江戸の武家文化、全国各地から移住してきた技術者集団の文化、さらに北陸や西日本の町人文化が加わり、渾然一体となって創り上げられていった。このため、金銀山に関連する遺跡や社寺等の建造物、民俗芸能や年中行事、伝統産業などの歴史文化資源が島内全域にわたって分布している。

近年は、自然、歴史、文化などの本市の豊富な地域資源が注目され、世界農業遺産(GIAHS)や日本ジオパークに認定されたほか、佐渡金銀山の世界文化遺産登録運動が起こり、関連文化財の整備、まち並みの保存に取り組んでいる。

一方で、過疎化や少子高齢化に起因した様々な課題によって、維持管理が困難となった歴史的建造物の劣化や空き家の増加による景観上、防災上の問題が生じている。また、民俗芸能や伝統行事、伝統産業等の継承や維持、保存が困難となり、活動の縮小や休止が行われている地域もある。

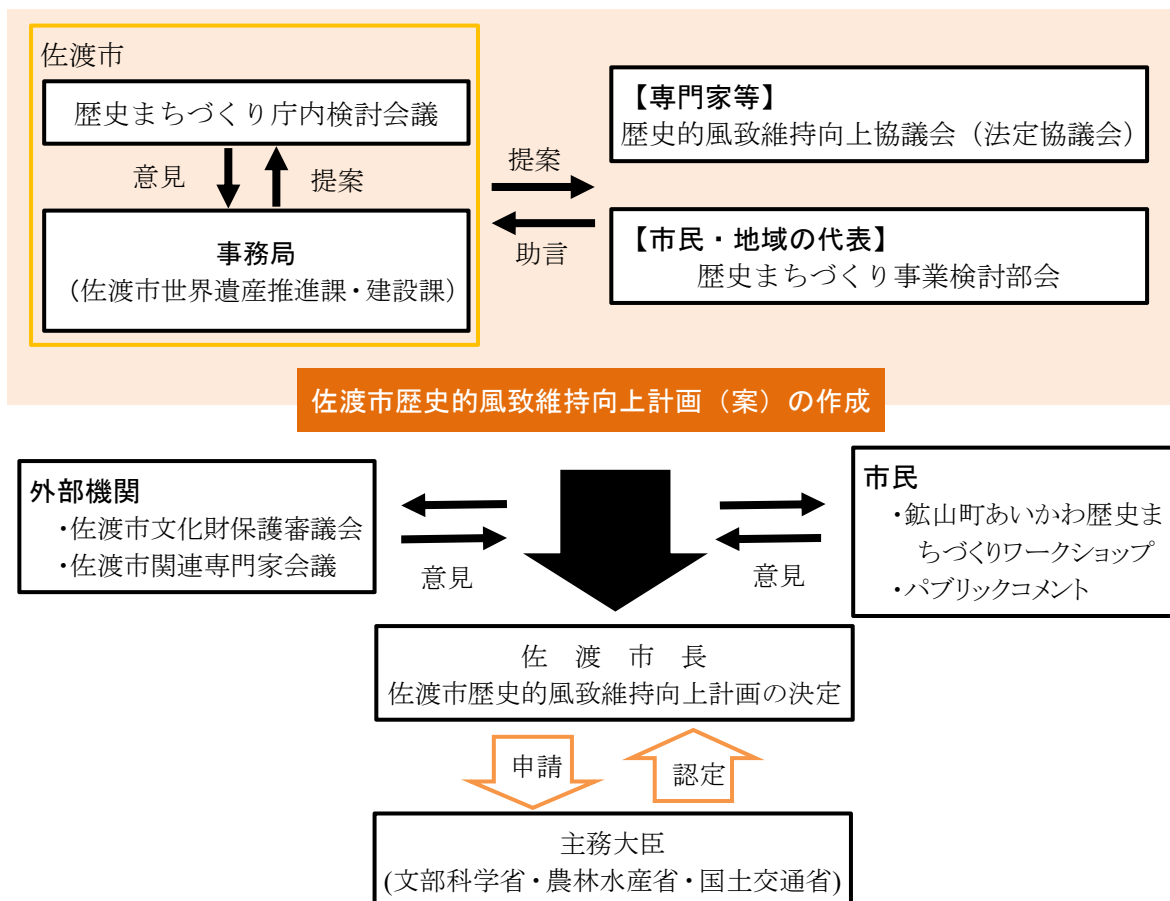
こうした状況を踏まえ、本市では、行政や市民等が力を合わせて、古くから受け継がれてきた貴重な歴史的景観や、歴史文化遺産を守り、継承し、豊かな地域を育むための「歴史まちづくり」を目指し、「佐渡市歴史的風致維持向上計画」を策定することとする。

2. 計画期間

本計画の計画期間は、令和2（2020）年度から令和11（2029）年度までの10年間とする。

3. 計画の策定体制

本計画の策定にあたっては、市民や学識経験者、関係団体代表者、行政機関等の職員によって構成した市の諮問機関である「佐渡市歴史的風致維持向上協議会」（地域における歴史的風致維持及び向上に関する法律（以下「歴史まちづくり法」と称す）第11条の法定協議会）において、専門的見地から意見をもらい、計画案の策定を進めた。併せて、本市の文化財に関する諮問機関である「佐渡市文化財保護審議会」や「関連専門家会議」への報告、地域の課題や要望などの把握のため「鉾山町あいかわ歴史まちづくりワークショップ」を開催し、広く市民からの意見募集などを経て、市の実施事業を検討する「庁内検討会議」や、ワークショップの意見をもとに事業を再検討する「歴史まちづくり事業検討部会」で意見をまとめ、「佐渡市歴史的風致維持向上協議会」において、さらに検討を進め、計画の取りまとめを行った。



佐渡市歴史的風致維持向上計画の策定フロー

佐渡市歴史的風致維持向上協議会名簿

区分	氏名	役職名等	備考
学識経験者	◎岡崎 篤行	新潟大学工学部教授	
学識経験者	木村 勉	長岡造形大学名誉教授	
関係団体	池田 秀範	相川地区公民館長	
関係団体	加藤 透	佐渡観光交流機構 常務理事	
関係団体	○小林 祐玄	NPO 法人相川京町並み保存センター理事長	
関係団体	富田 龍彦	相川町商工会 副会長	
関係団体	永松 武彦	佐渡を世界遺産にする会 副会長	～R1.5
関係団体	羽生 令吉	佐渡を世界遺産にする会	R1.7～
地域代表	弾正 成子	地元有識者	
地域代表	萩野 正作	地元有識者	
地域代表	三木 緑	地元有識者	
行政機関		新潟県教育庁文化行政課長	
行政機関		新潟県佐渡地域振興局地域整備部長	
行政機関		新潟県佐渡地域振興局企画振興部長	
市職員		佐渡市副市長	
市職員		佐渡市相川支所長	
オブザーバー		国土交通省北陸地方整備局建政部 都市調整官	

◎は会長、○は副会長（順不同・敬称略）

歴史まちづくり事業検討部会名簿

区分	氏名	役職名等
地域を代表する者	山本 大喜	相川1分団長
地域を代表する者	◎河村 昇	相川2分団長
地域を代表する者	中川 健寿	相川3分団長
地域を代表する者	児玉 一人	相川4分団長
地域を代表する者	池田 美隆	相川5分団長
地域の有識者	駄栗毛 寛	佐渡金銀山古道を守る会 会長
地域の有識者	仲田 善夫	地元有識者（前相川地区公民館長） （相川地区青少年健全育成協議会会長）
関係団体を代表する者	其田 弘輔	相川商工会青年部長
関係団体を代表する者	田村 平人	相川フロント会議代表
関係団体を代表する者	竹内 由記雄	新潟交通佐渡株式会社 営業部長
関係行政機関の職員	服部 忍	新潟県佐渡地域振興局地域整備部 計画調整課長
関係行政機関の職員	石附 直人	新潟県佐渡地域振興局企画振興部 地域振興課長
関係行政機関の職員	竹内 広幸	新潟県佐渡西警察署 地域課長
市職員	矢田 美宏	佐渡市相川消防署長
オブザーバー	長野 睦	新潟県佐渡地域振興局地域整備部 計画調整課 計画専門員
オブザーバー	後藤 一安	新潟県佐渡地域振興局企画振興部 地域振興課 域振興専門員
オブザーバー	岡部 欽也	佐渡観光交流機構 相川案内所

◎は会長（順不同・敬称略）

4. 計画策定の経緯

計画策定の経緯

開催日	会議名等
平成 30 年 7 月 26 日	第 1 回佐渡市歴史的風致維持向上協議会
平成 30 年 10 月 30 日	第 1 回鉾山町あいかわ歴史まちづくりワークショップ
平成 30 年 10 月 31 日	第 1 回鉾山町あいかわ歴史まちづくりワークショップ
平成 30 年 11 月 13 日	第 2 回鉾山町あいかわ歴史まちづくりワークショップ
平成 30 年 11 月 14 日	第 2 回鉾山町あいかわ歴史まちづくりワークショップ
平成 30 年 11 月 27 日	第 3 回鉾山町あいかわ歴史まちづくりワークショップ
平成 30 年 11 月 28 日	第 3 回鉾山町あいかわ歴史まちづくりワークショップ
平成 30 年 12 月 25 日	第 1 回佐渡市庁内検討会議
平成 31 年 2 月 18 日	第 2 回佐渡市庁内検討会議
平成 31 年 3 月 19 日	第 2 回佐渡市歴史的風致維持向上協議会
平成 31 年 4 月 23 日	第 1 回佐渡市歴史まちづくり事業検討部会
令和元年 5 月 27 日	第 3 回佐渡市庁内検討会議
令和元年 5 月 29 日	第 2 回佐渡市歴史まちづくり事業検討部会
令和元年 6 月 27 日	第 3 回佐渡市歴史まちづくり事業検討部会
令和元年 7 月 23 日	第 4 回佐渡市歴史まちづくり事業検討部会
令和元年 7 月 29 日	第 3 回佐渡市歴史的風致維持向上協議会
令和元年 8 月 28 日	第 4 回庁内検討会議
令和元年 8 月 29 日	第 5 回佐渡市歴史まちづくり事業検討部会
令和元年 11 月 28 日	第 4 回佐渡市歴史的風致維持向上協議会
令和元年 12 月 10 日～ 令和 2 年 1 月 10 日	意見募集（パブリックコメント）
令和 2 年 2 月 21 日	佐渡市歴史的風致維持向上計画認定申請
令和 2 年 3 月 日	佐渡市歴史的風致維持向上協議計画認定

※注釈

相川金銀山と佐渡鉾山…江戸時代の出来事については、「相川金銀山」、明治時代以降の出来事については、「佐渡鉾山」と記載する。